【承諾番号23-2348】朝日新聞社に無断で転載することを禁じます。



# ブラスでカラフルに♪「カルミナ・ブラーナ」

## シオン100周年演奏会 来月、大植英次さんと初共演

今年で創立100周年のオオサカ・シオン・ウインド・オーケストラが9月の特別演奏会でカール・オルフの大曲「カルミナ・ブラーナ」に挑む。指揮者・大植英次さんと、シオン楽団長でバストロンボーン奏者の石井徹哉さんが、作品の魅力や吹奏楽の楽しさを語り合った。

〈大植さんとシオンは今回が初共演〉

**大植**　大阪で最初にできた音楽団体で、一番大事な大黒柱。音楽で大阪の意気を上げてきた、そういう団体とご一緒できるのは感無量ですし、それはもう楽しみにしています。

**石井**　大植さんに振っていただくのは長年の夢でした。以前、大植さんがシオンを「このバンドの（固有の）音があるんですよ！」と紹介してくださったのが心に残っています。プレーヤー一人一人の、シオンサウンドを作ることに対するプライドはすごく高いです。

〈「カルミナ・ブラーナ」について〉

指揮者の大植英次さん（右）とオオサカ・シオン・ウインド・オーケストラ楽団長の石井徹哉さん

**大植**　愛あり恋あり、ドラマに満ちた作品です。合唱が冒頭で歌う「オー、フォルトゥーナ！（おお、運命の女神よ）」。最初の一音を振った時に、運命の女神が現れる驚きがある。作品を通じて、運命は自分たちで決めるというメッセージが伝わってきます。

〈オーケストラのために書かれた曲を吹奏楽用の編曲で演奏することについて〉

**大植**　ブラスだからこう、オーケストラだからこうという前に、大切なのは作曲家でありストーリー。「カルミナ・ブラーナ」の違った側面が見えてくるのを楽しみにしています。

**石井**　特に冒頭と最後の「運命の女神」。合唱の最大音量に吹奏楽の最大音量が合わさった時に、一体どういうサウンドになるのか。

**大植**　ブラスバンドにはオーケストラには出せないカラフルな音があるんですよ。僕は小・中・高校とずっとブラスバンドをやってきて、大好きですから。

**石井**　前半で演奏する「大阪俗謡による幻想曲」は、シオンに縁が深い曲です。朝比奈隆さんの依頼で大栗裕さんが作曲。その後、大栗さんが吹奏楽版にアレンジし、74年にシオンが初演しました。元の曲は違うとしても、サウンドはもう吹奏楽そのものなので。

〈夏は吹奏楽のコンクールシーズン〉

**大植**　日本の吹奏楽部のレベルはものすごく高い。にもかかわらず、コンクールのためだけにやっている子が多い。コンクールで金賞を取ったらもうそれでおしまいという、ものすごくもったいない状況です。

シオンはそういう子たちに「音楽を続けていればこんな楽しい未来があるよ」と見せられる。金賞は第一歩でしかなくて、その先にブラスバンドの喜びがある。希望を持たせる団体だと思うんですよ。

（構成・安部美香子）

演奏会は9月2日午後3時、大阪・中之島のフェスティバルホール（06・6231・2221）。S席8500円ほか。朝日新聞社、朝日新聞文化財団など主催、大阪国際フェスティバルの一環。